



第3回地域包括ケア推進会議 協議事項

日時：平成31年3月13日（水）18:30～

場所：いわき市総合保健福祉センター 多目的ホール

資料構成

- (1) 本人の選択と家族の心構え
- (2) すまいとすまい方
- (3) 介護予防・生活支援
- (4) 医療・看護・介護・リハビリ・
保健・福祉





前回（第2回）の主な発言要旨

1 すまい・すまい方

- ・身寄りのない方の遺品整理、財産整理についても社会問題化しており、これらの事案も検討していく必要がある

2 介護予防

- ・ケアマネジメント支援会議において、専門職のアドバイスによる効果がフィードバックされる仕組みが重要である

3 生活支援

- ・住民支え合いの役割分担（市、社協、包括）が整理されつつあり、取組みを行う地区も増えてきた





普及啓発に向けての取組み全体像

① 体験・学習（直接）

学び舎、塾、
寺子屋など

小名浜・常磐・内郷・
四倉・小川で
月1～2回開催予定

医師会出前講座
・
つどいの場への
専門職の派遣

介護フェア
・
徘徊模擬訓練

オレンジカフェ

いごくフェス2018（アリオス、平中央公園）

（今年度は9月7、8日で開催）

※次回は平成31年9月1日（日）で調整中

② 情報媒体（間接）

フェイスブック
（随時発信）

WEBサイト
（随時発信）
※平成29年9月18日開設

フリーペーパーなど
紙媒体
（各号5,000部発行）

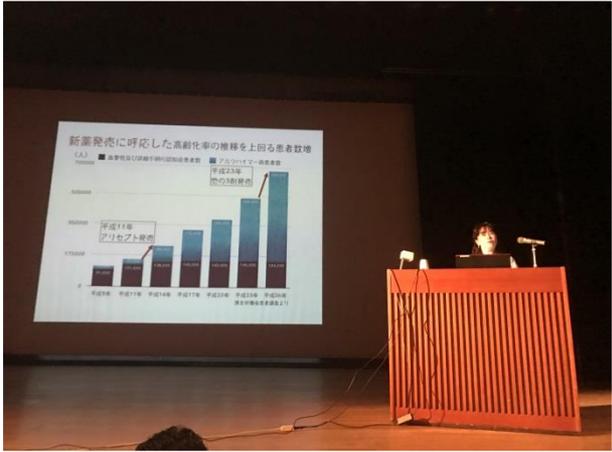


中地域ケア会議の取組みについて

地区	平地区	
名称	中地域ケア会議	【普及啓発関連】 徘徊模擬訓練
実施日	第1回：6月14日 第2回：7月30日 第3回：12月13日 第4回：3月7日	9月7日
実施内容	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○徘徊模擬訓練の実施について 訓練実施に向けて、実施計画及び運営等について協議を重ねた。 ○つどいの場などへの送迎について 地域資源を活用して送迎を行うことなどについて検討した。 ○事例検討 個別事例を取り上げ、地域の現状や課題から対応策を検討した。 	<p>平中央公園にて、模擬徘徊者などに対し、声かけ訓練等を実施。 (いごくフェスと同時開催)</p>  <div data-bbox="1425 879 1779 1082"> <p>声をかけてくれて ありがとう♡</p> <p>どーまわ</p> <p>平成30年9月7日 徘徊模擬訓練 平地区中地域ケア会議</p>  </div> <p>実施した様子をDVDに編集</p>
次年度の予定	事例検討 等	徘徊模擬訓練（年1回）等



中地域ケア会議の取組みについて

地区	小名浜地区	
名称	中地域ケア会議	【普及啓発関連】 小名浜地区認知症在宅ケア講演会
実施日	第1回：6月27日 第2回：9月12日 第3回：11月28日 第4回：2月27日	6月30日
実施内容	<p><まとめ> ○小名浜地区における各団体による出前講座（学び舎-おなはま-） 30年度 実施回数9回 参加総数116名 ※31年2月8日に事業周知のための全戸回覧を行った。</p> <p>○事例検討 独居男性の支援など、個別事例を取り上げ、課題解決を図った。</p> <p>○小名浜多職種連携のつどい 事例検討を通して、専門職及び関係機関の役割を再確認した。</p> <p>○専門職の学びの場 7月19日 丸ほん（オレンジカフェ） 2月19日 かしま病院で実施</p>	<p>小名浜市民会館にて、「認知症の理解と援助」の講演及び公開座談会を実施</p> 
次年度の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小名浜地区地域包括ケアシステムの構築について ・事例検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・小名浜地区認知症在宅ケア講演会 ・各団体による出前講座（学び舎-おなはま-） ・専門職の学びの場等



中地域ケア会議の取組みについて

地区	勿来・田人地区	
名称	中地域ケア会議	【普及啓発関連】 医療・介護・健康フェア
実施日	第1回：6月27日 第2回：12月13日	勿来地区：5月19日 田人地区：6月7日
実施内容	<p>＜まとめ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移動手段の検討について 田人地区における輸送システムのモデル事業の進捗状況について報告、協議を進めた。 ○勿来管内における認知症カフェの開設 勿来地区管内2か所にて、オレンジカフェ以和貴を新規に開始した。 ○医療・介護・健康フェアについて 次年度も引き続きイベント実施に向けて、運営等について協議を重ねた。 ○福祉サービス空白地の食の確保について 中山間地域住民の食の確保のため、配食サービス事業所の新規開拓等に向けて協議を進めた。 	
次年度の予定	福祉サービス空白地の食の確保について 等	医療・介護・健康フェア 勿来地区（5月末）、田人地区（6月）





中地域ケア会議の取組みについて

地区	常磐・遠野地区	
名称	中地域ケア会議	【普及啓発関連】 介護フェア
実施日	第1回：9月27日 第2回：2月14日	遠野地区：9月29日 常磐地区：10月13日
実施内容	<p><まとめ></p> <p>○認知症声かけ訓練について 常磐地区介護フェアと同時開催で認知症講話、通報・声かけ訓練を実施した。</p> <p>○つどいの場創出モデル事業について 専門職や地域住民で組織するワーキンググループを設置し、食を通じたつどいの場づくりに向け協議を進めている。</p> <p>○事例検討 小地域ケア会議で出された地域課題について検討を行った。</p>	<p>入遠野公民館、常磐公民館において介護フェアを開催。</p>  
次年度の予定	つどいの場づくり、多職種の連携、事例検討 等	認知症徘徊模擬訓練、JTほっとりんく、常磐・遠野いきいき健康塾（年13回）等



中地域ケア会議の取組みについて

地区	内郷・好間・三和地区		
名称	中地域ケア会議	【普及啓発関連】	
実施日	第1回：6月11日、第2回：12月14日、 第3回：3月15日	介護塾 随時 15回開催	終活講座 1日目：9月13日 2日目：9月27日
実施内容	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○三和地区への地域支援について 昨年度把握した地域課題の解決に向けた取組みを検討、三世代交流会を実施した。 ○内郷・好間地区生活状況調査について 年度内に調査結果をまとめ、次年度に繋げる。 ○認知症地域相談窓口について 同窓口の利用の推進等について協議を重ねた。 ○認知症ケアパスの作成について ケアパスの作成に向けて協議を重ねた。 ○地域課題の検討について 地域包括支援センターが実施した個別ケア会議の結果を受け、地域課題の検討を行った。 	<p><実施内容></p> <p>医療、介護、認知症等に関する学びの場として介護塾を実施した。具体的には、地域団体等が主催するつどいの場に、講師派遣をした。</p>	<p><実施内容></p> <p>認知症等により判断能力が低下する前に、本人の思いを確認し、望む暮らしを実現するため、「いわき安心ノート」を活用した終活講座を実施した。</p>
次年度の予定	<ul style="list-style-type: none"> ○生活状況調査から把握した課題への対応 ○認知症地域相談窓口の利用の推進 ○認知症ケアパスの作成、配布 ○個別ケア会議を踏まえた地域課題の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護塾の実施 ○プログラムの追加 	<ul style="list-style-type: none"> ○終活講座の実施 ※開催地区以外



中地域ケア会議の取組みについて

地区	四倉・久之浜大久地区	
名称	中地域ケア会議	【普及啓発関連】 認知症声かけ訓練
実施日	第1回：5月24日 第2回：1月31日	11月1日
実施内容	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>いわき医療介護学校よつくら塾について</u> 塾生のアンケート結果を基に効果を検証 塾生の活躍できる場所の検討 ○<u>大久地区における会食の取組みについて</u> 「会食の会」実施に向けた協議、継続開催へ向けて「大久ふれあい会」の発足 ○<u>オレンジカフェ以和貴の今後について</u> つどいの場の代表者も参加しPR活動 久之浜大久地区でのサテライト開催の検討 	<p>大浦小学校にて、「認知症教室」、「高齢者疑似体験」を学習した4年生を対象に認知症声かけ訓練等を実施 (区長、民生児童委員が認知症高齢者役で参加)</p> 
次年度の予定	よつくら塾の継続 大久ふれあい会の「つどいの場」への移行 オレンジカフェ以和貴 in 海竜の里のサテライト開催	四倉管内の小学校での認知症声かけ訓練



中地域ケア会議の取組みについて

地区	小川・川前地区	
名称	中地域ケア会議	【普及啓発関連】 小川寺子屋
実施日	第1回：9月27日 第2回：2月28日	毎月第2・第4金曜日 (全20回)
実施内容	<p><まとめ> ○口腔ケア活動について 介護などを必要とし、活動へ参加できない方への啓発について協議した。 ○冬期限定CCRC 生活の安心・安全と生きがいを得てもらいながら厳しい冬を乗りきるためのすまい方を検討・協議した。 ○家族介護用品について 川前地区における介護用品配達の利便性を向上させるための解決策を検討した。</p>	<p>小川公民館にて医療や介護など様々な分野から講師をお招きし、講義を通して健康な心と体をつくっていただく。また身に着けた知識を地域の方に積極的に広めてもらう健康推進者の育成を目的とする。</p>  
次年度の予定	寺子屋事業について 冬季限定CCRC 等	認知症カフェ 小川寺子屋 (年15回) 等



ポータルサイト「igoku」の掲載状況等

いわきでいごいて死ぬ人たちのつどいの場

音声読み上げ 文字サイズ **大** **中** **小**



とりくみ about	ひと people	つどう place	つながる event	コラム column	アーカイブ archive	コンタクト contact
ひと (13)		つどう (9)		コンタクト (寄せられた主な意見等) (18件)		
高齢者	7	つどいの場	8	市内	5	<ul style="list-style-type: none"> ・紙のいごくを希望 (4) ・「ひと」の写真はとても興味深く、エールのようなものを感じる
医者	3		1			
障がい関連	2	多職種連携	1			
その他	1					
つながる (16)		コラム (44)		市外	13	<ul style="list-style-type: none"> ・生活者の目線で気取らず、ありのままの言葉で伝わってくる ・「igoku」の情報発信のテーマ、内容、デザインが本当に素敵で魅了された <p style="text-align: right;">など</p>
認知症カフェ	6	つどいの場	10			
地域イベント	5	いごくフェス	8			
いごくフェス	4	ゼミ、ツアー	6			
ボラポ	1	その他	20			



フリーペーパー「紙のいごく Vol.5」 (3/末発行予定)



【主な記事】

○認知症特集

- ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）への訪問
- ・丹野智文氏（おれんじドア実行委員会代表）へのインタビュー
- ・昨年秋のいごくフェスで「VR認知症体験」のプログラムを開発した(株)シルバーウッドが運営するサ高住「銀木犀」を見学



※平成30年度は発行部数5,000部にて市内公共施設等で配付。フリーペーパーの問い合わせ等が多いことから、次年度は発行部数10,000部を予定



ハイリスク者把握に向けたスクリーニング（抽出）

ハイリスク者（体を動かさない状態が続くことによって心身の機能が低下して動けなくなる「廃用症候群」や「生活習慣病」などが悪化する可能性の高い高齢者）を効率的かつ迅速に把握するため、医療や介護保険情報の一部を活用し抽出する。

【これまでの経過】

○2次予防事業対象者把握事業（平成28年度まで）

・従来のハイリスク者の把握については、65歳以上のうち、介護認定を受けていない方に対し、生活機能評価基本チェックリストを郵送し、返送された者に対して、包括支援センターの職員等による訪問活動による実態把握を行ってきた。
⇒課題として、返送数の数が多く、実態把握に時間を要す返送がない方へのアプローチは不足

○個人情報審議会（平成30年11月）

・真のハイリスク者は、行政機関をはじめ、医療や介護の専門機関等と関わりが希薄な者であると想定されることから、介護認定情報等の目的外利用について審議会に諮り了承。

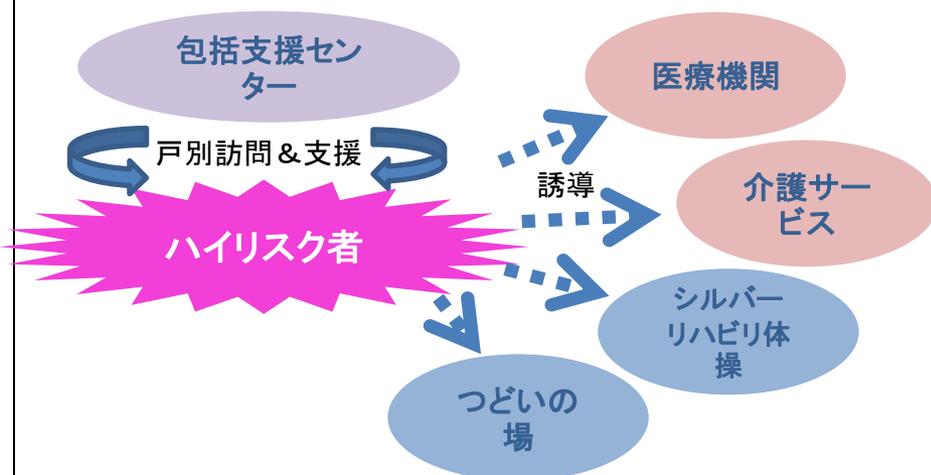
【現状の取組み】（平成31年1月～）

・包括支援センター職員による訪問等で実態把握を実施中。

※対象者の抽出条件（初回：計298人）

75歳以上、男性、独居、市民税非課税、介護認定なし、生活保護受給なし

【イメージ】



※今後は、初回の抽出結果に伴う実態調査の結果（3月末予定）を踏まえ、2回目の抽出条件を新たに設定するなど、更なるハイリスク者へのアプローチを実施していく。



みんなのたまり場（地域共生社会まちづくりモデル事業）

地域共生社会まちづくりモデル事業は、地域共生社会の実現に向けて、高齢者の福祉増進等に資するための取組みのうち、地域課題に対応することを目的に、地域住民等が主体となった先駆的な活動をモデル事業として選定し支援する。

- 事業名：共生型常設型居場所「みんなのたまり場」
- 運営団体：特定非営利法人布紗
- 場 所：平上荒川
- 内 容：高齢者はもとより、子どもや障がいのある方も
区別することなく、対象者を限定しない常設の
居場所づくりを通して、地域課題の解決を目指す

○選定ポイント

- ・課題を的確にとらえている
- ・対象者を限定していない
- ・常設の居場所の運営
- ・他の地域でも参考になる
- ・地域住民とつながるイベントなども検討している

○スケジュール

- 平成31年2～3月 整備
- 平成31年4月以降 運営

<イメージイラスト>



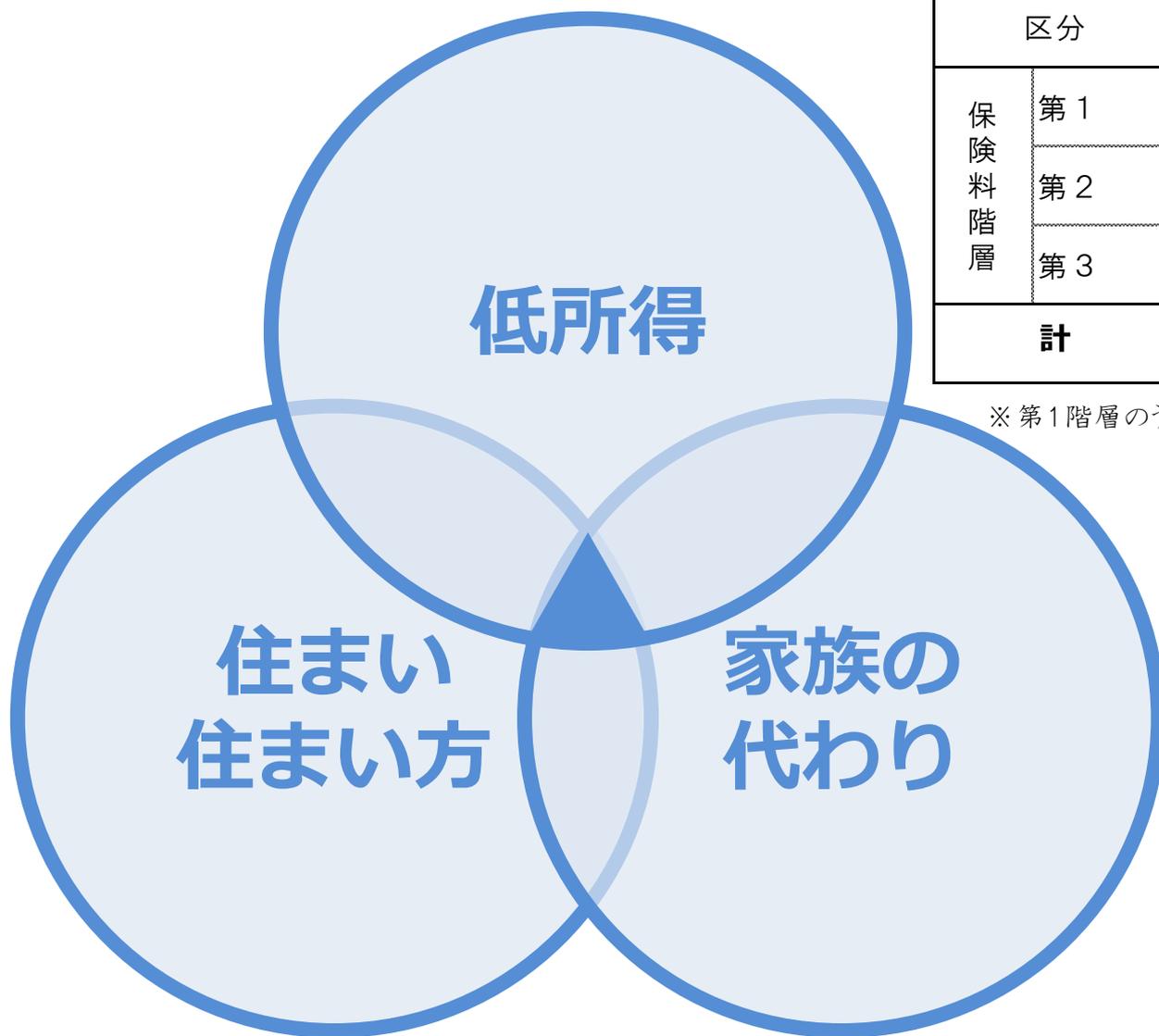
※「みんなのたまり場」の取組み状況は、ポータルサイト等での情報発信を行うとともに、平成31年度についても、引き続き、先駆的でモデルとなるハードやソフトの取組みを選定し支援していく。





低所得で、家族がいない方の住まいの問題

<基礎的データ>



区分		総数	単身者	割合
保険料階層	第1	14,385	9,322	64.8%
	第2	6,985	3,724	53.3%
	第3	6,167	2,308	37.4%
計		27,537	15,354	55.8%

※ 第1階層のうち、生保受給(2,050人 単身1,498人)を除く

住まいを移る際や入院・入所の際に、「身元引受人」や「連帯保証人」が確保できないケースが増えてきているし、今後、更に増加が予想される。



〈NPO法人地域福祉ネットワークいわき独自事業〉

H31入居・入所、葬送等支援事業(案)について

これまで親族が担ってきた入居（入所）保証、葬送支援等について、親族がいない場合や、親族はいるが親族外による身元保証を希望する際に、**事前に本人の意思を尊重しながら**、終末期を含め、本人が安心して暮らし続けることができるよう支援するもの。

○対象者（負担：500円/月）

市内に居住する次の全てを満たす方

- 1 包括支援センター等の機関が何等かの支援を行っている高齢者または障がい者
- 2 本人の前年の合計所得金額が125万円以下
- 3 契約締結が可能（後見制度も可）

【支援内容に対する主な役割（検討中）】

団体	主な役割
NPO法人地域福祉ネットワークいわき	<ul style="list-style-type: none"> ・入居・入所に係る連帯保証 ・死亡時や緊急時の対応 ・契約事務支援 ・事務局機能
市 (長寿、地区セン、権利擁護センター、障がい、地域包括など)	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に係る意思表示確認支援 ・死亡時や緊急時の対応 ・後見制度利用に係る支援 ・庁内関係部署との連携調整
構成員 (社福法人、不動産業者、葬祭業者、宗教法人など)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織による定期会議への出席 ・事業運営のための金銭支援（会費） ・対象者に対する定期的な安否確認
その他 (個人、民間企業など)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営のための金銭支援（寄附） ・その他、安否確認、終活アドバイス、エンディングノート作成機会の確保など

○支援内容

- ① 入居・入所保証
 - ② 葬送支援（火葬、埋葬）
- ※①、②に関連して、電話や訪問による安否確認や、エンディングノート等による意思確認を行う

○実施体制

・これまで意見交換を実施してきた協議会等からの推薦メンバーによる運営組織を設立し、支援や収支を確認。その他、趣旨に賛同する法人等による事業運営のための金銭支援(会費10千円/1口)、会議への出席、安否確認等の人的支援



事例紹介：わたしの終活登録（横須賀市）

発言1

無料
横須賀市
受付

わたしの 終活登録

終活情報登録伝達事業

準備できない時代から
準備できる時代へ

いつの世も人には
もしもの時が訪れることがあります。

戦国時代最強の織田信長さえも
それはふいに、突然やってきました。

しかし今は
誰でもみんなが準備できる時代。

横須賀市なら
必要な情報をあらかじめ
登録しておくことで
もしもの時、あなたに代わって
対応できます。

お問い合わせ
横須賀市役所
046-822-8070



わたしの終活登録とは

「緊急連絡先」や「終活ノート」「遺言書」の保管場所
葬儀の「生前契約先」や「お墓の所在地」など

あなたの大切な終活情報を事前に横須賀市にご登録いただくことで
搬送時やいざと言う時、あなたやご家族・ご親族に代わって
市が病院・消防・福祉事務所・警察・指定登録した方からの
お問い合わせにお答えする制度です。

登録項目は自由に選べます

登録できる人

①本人、②後見人、③親族、④知人の順で優先。

() 内の番号の方は疾病・障害など、事情に応じ記入できる場合があります

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 本籍・筆頭者：①②③ 2. 緊急連絡先：①②③④ 3. 支援事業所等：①②③ 4. 医師・アレルギー：①②③ 5. リビングウィルの保管場所：①②③ 6. エンディングノートの保管場所：①②③ | <ol style="list-style-type: none"> 7. 臓器提供に関する意思表示：① 8. 葬儀・遺品整理・献体の生前契約・登録先：①②③ 9. 遺言書の保管場所と同保管場所の回答者指定：① 10. お墓の所在地：①②③④ 11. その他 自由登録項目：① |
|--|---|

相談者数：326件

登録者数： 71件 ※平成30年5月～事業開始





介護予防にも、生活支援にも「通いの場」は重要な地域の資源

介護
予防

本人の**自発的**な**参加意欲**に基づく、**継続性**のある、
効果的な**介護予防**を実施していくこと

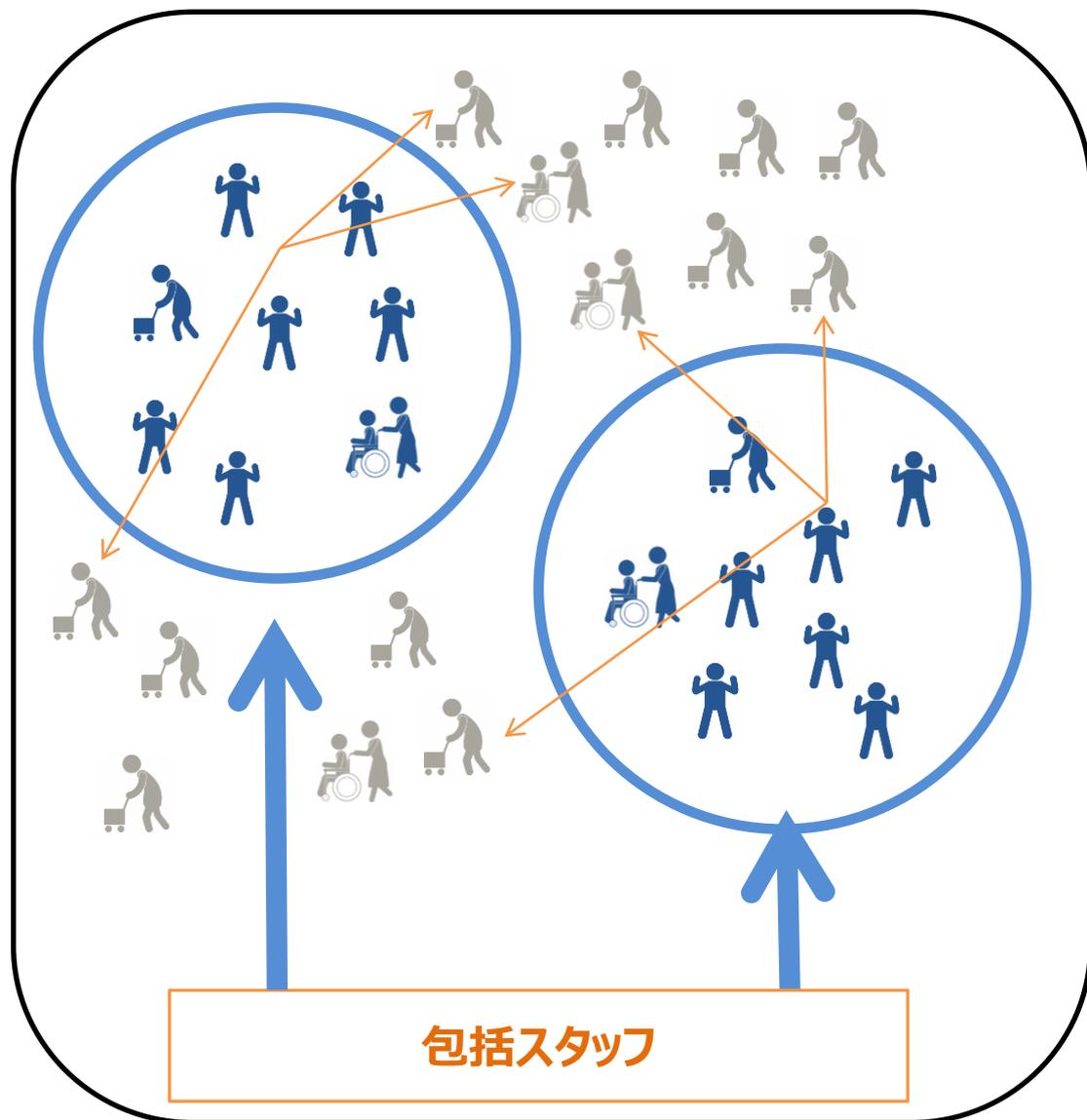
通いの場 (つどいの場)

生活
支援

地域における**自立**した**日常生活**を実現するために、
地域の**多様な主体**による**多様な生活支援**を地域の中で確保し、
介護専門職は身体介護を中心とした**中重度支援**に**重点化**を進める。



つどいの場の狙い 早期発見・把握～介護予防～重篤化を防ぐ



STEP 1

つどいの場へ、基本チェックリストを年に1回、“おでかけ”で取りに行き、参加者の健康把握に努める。

STEP 2

つどいの場に来ていない人で、近所に「心配な人」「気になる人」がいないか、情報収集に努める。

↓
必要に応じ、個別訪問。



つどいの場の現状について

	H29.3 ※参考	H30.3 (a)	H31.2 (b)	差 (b)-(a)
つどいの場の数	355ヶ所	413ヶ所	<u>441ヶ所</u>	<u>28ヶ所</u>
参加実人数	7,831人	9,033人	<u>9,245人</u>	<u>212人</u>

※多様なプログラム活用団体**268**団体中、医療介護リハ専門職派遣：**169**件

つどいの場での活動を通して、地域のつながりが活発化し、生活支援への移行を検討している地区もあることから、引き続き、生活支援の創出に向けて支援していく



ケアマネジメント支援会議 (平成29年10月より開始)

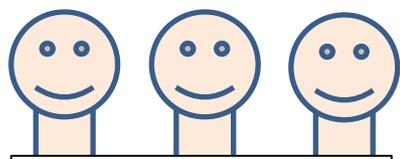
高齢者の生活行為の課題等を明らかにし、自立支援に資するケアプラン作成と支援を行うため、多職種からの専門的な助言を活かしたケアマネジメントを実施するもの。

実績

- 平成29年度
会議開催数：20回 検討件数：71ケース
- 平成30年度（平成31年2月末現在）
会議開催数：43回 検討件数：168ケース

平成31年2月末現在合計

- 会議開催数 63回
- 検討件数 239ケース



アドバイザー

事例提供者

プランに対するアドバイスを事例提供者からの相談

改善・卒業

つどいの場

セルフケア

(3~6ヶ月後)
モニタリング
再アセスメント

維持・悪化

延長・継続



会議を実施することでみえてきた課題と対応策

前回の推進会議で示した当会議を実施することでの課題

- ・ 介護事業所の指導力・スキルアップの必要性
- ・ プラン作成者のケアマネジメント力向上の必要性

発言2

この課題に対応するため・・・

対応策
1

専門職から得られたアドバイスについてケアプラン作成者・介護事業所に会議終了後、アドバイスをどのように活かしたか、なぜ活かせなかったのか確認作業を実施する

※詳細は次頁を参照

対応策
2

次年度以降、専門職からのアドバイスをより実践的に取り入れてもらえるよう介護関係者を対象に専門職を講師とした研修会の開催を検討する。



① 市 → ケアプラン作成者・介護事業所

市は、会議終了後、会議で得られたアドバイスの助言文及び左記の「結果確認票」をケアプラン作成者及び介護事業所に送付します。

② ケアプラン作成者・介護事業所

ケアプラン作成者及び介護事業所は得られたアドバイスについて活用できたか否かを「可・否」欄に○をつけます。また活かした理由・活かせなかった理由を「備考欄」に記載します。

③ ケアプラン作成者・介護事業所 → 市

ケアプラン作成者・介護事業所は、記入した結果確認票を再度、市に返送します。

④ 市

市は、ケアプラン作成者・介護事業所から回答された結果確認票の内容を集約します。

⑤ 市 → 専門職団体（アドバイザー）

市は、その集約した内容を各専門職団体に送付し、団体内でどのようなアドバイスが活かされ、どのようなアドバイスが活かされなかったかの確認をしてもらい、今後のアドバイスに活かしてもらうこととします。

対応策
1

いわき市介護予防ケアマネジメント支援会議結果確認票

開催場所	ケース番号	年齢		氏名
氏名	アドバイス内容	対応者	活用可否	備考
			可・否	

先日は、お忙しいなか、会議に参加いただきましてありがとうございました。
つきましては、会議中に出たアドバイスについてケアプラン及び個別支援計画書にどのように活かされたかを
たいので結果確認票を○月○日までに最寄りの地域包括支援センターまで御提出願います。



総合事業の報酬体系の課題と見直しの方向性

総合事業開始後、市独自のサービスを随時導入するなど、利用者の状態像や環境に応じた柔軟な介護予防支援が提供できる体制構築に向けた検討を進めているが、総合事業の報酬体系において課題がある。

(1) 本市のサービス体系

種別	サービス名	報酬体系	単位
訪問型サービス	介護予防訪問介護相当サービス (従来の基準)	包括報酬 (月額固定)	①週1回程度 1,168単位/月額 ②週2回程度 2,335単位/月額 ③週2回以上 3,704単位/月額 (③は、要支援2のみ利用可)
	生活援助サービス (市独自)	出来高報酬 (1回あたり)	1回あたり 225単位 (要支援1・2共通)
	訪問型短期集中予防サービス (市独自) ・栄養改善、口腔機能改善プログラム	直営	なし
通所型サービス	介護予防通所介護相当サービス (従来の基準)	包括報酬 (月額固定)	①要支援1 1,647単位/月額 ②要支援2 3,377単位/月額
	通所型短期集中予防サービス (市独自) ・生活行為改善プログラム	出来高報酬 (1回あたり)	1回あたり 405単位 (要支援1・2共通)
	つどいの場創出支援事業 (市独自)	住民主体の活動	活動費の一部補助



(2) 総合事業の報酬体系の課題

① 市独自の多様なサービスとの併用に関する課題

現行の月額包括報酬の場合、同型サービスの複数事業所の利用ができない。

○ 週2回の利用が必要な方が、定員の関係で週1回の利用しかできない場合

→ 出来高報酬にすると、通所型サービス事業所の併用により、週2回の機能訓練が可能になる。

○ 生活援助サービス利用者が、生活機能の維持・改善のためヘルパーと一緒に調理（身体介護）をする必要がある場合

→ 出来高報酬にすると、訪問型サービスの併用により、掃除（生活援助サービス）とヘルパーとの調理（介護予防訪問介護相当サービス）が実施可能になる。

② 利用者負担額の課題

現行の月額包括報酬の場合、実際の利用回数に係わらず、月額固定の支払いとなっている。

○ 要支援2の週1回程度利用者への配慮

要支援2の方が介護予防通所介護相当サービスを利用する場合、週2回の利用を目安に月額包括報酬（3,377単位）が設定されているが、要支援2の方が週1回の利用した場合でも、3,377単位の月額包括報酬となる。

こうした方は、H29.10～H30.9において利用延べ人数の32.3%となっている。

○ 利用者負担割合の増への配慮

従来原則1割負担に加え、平成27年8月から所得に応じて2割負担の区分が設けられ、

さらに、平成30年8月には3割負担の区分が導入された。利用者負担の増が過大になることが懸念される。

(3) 今後の方向性

本年2月13日に開催された「いわき市介護保険運営協議会」において承認が得られたため、本市の介護予防訪問介護相当サービス及び介護予防通所介護相当サービスの報酬体系を、現行の月額包括報酬から出来高報酬に見直す方向で検討を進める。



通所型短期集中予防サービスの状況

専門職による、個別の機能改善プログラムを実施するサービス

何のために、どんな訓練を行うのか 目的を持って個別の機能改善プログラムを実施



○ショートステイ未来月見台における支援実績（H31.2月末時点）

	人数	平均年齢	平均 利用回数	目標 達成者数	支援終了後の活動移行状況			
					地域活動等 つどいの場	就労	その他 ※1	介護サービス ※2
男性	10人	78歳	22.1回	7名	3人	2人	1人	4人
女性	27人	79.2歳	17回	26名	18人	1人	2人	6人
計	37人	78.9歳	18.4回	33名	21人	3人	3人	10人

※1 地域活動等への参加誘導を拒否。自宅にてセルフケアを行いながら、活動量維持に努めている。

※2 目標達成するも本人希望によるデイサービス利用が6人、状態像（認知症、麻痺等）から継続支援必要と判断した方が4人

【支援の特色】

- ・目標を自分で書いて壁に掲示
- ・セルフケア、地域活動の啓発
- ・利用者宅でのアセスメント
- ・セルフトレーニング指導
- ・生活記録シートの活用
- ・セルフケア記録シートの活用
- ・地域資源の情報収集、提供
- ・卒業式の開催 など



機能訓練の風景

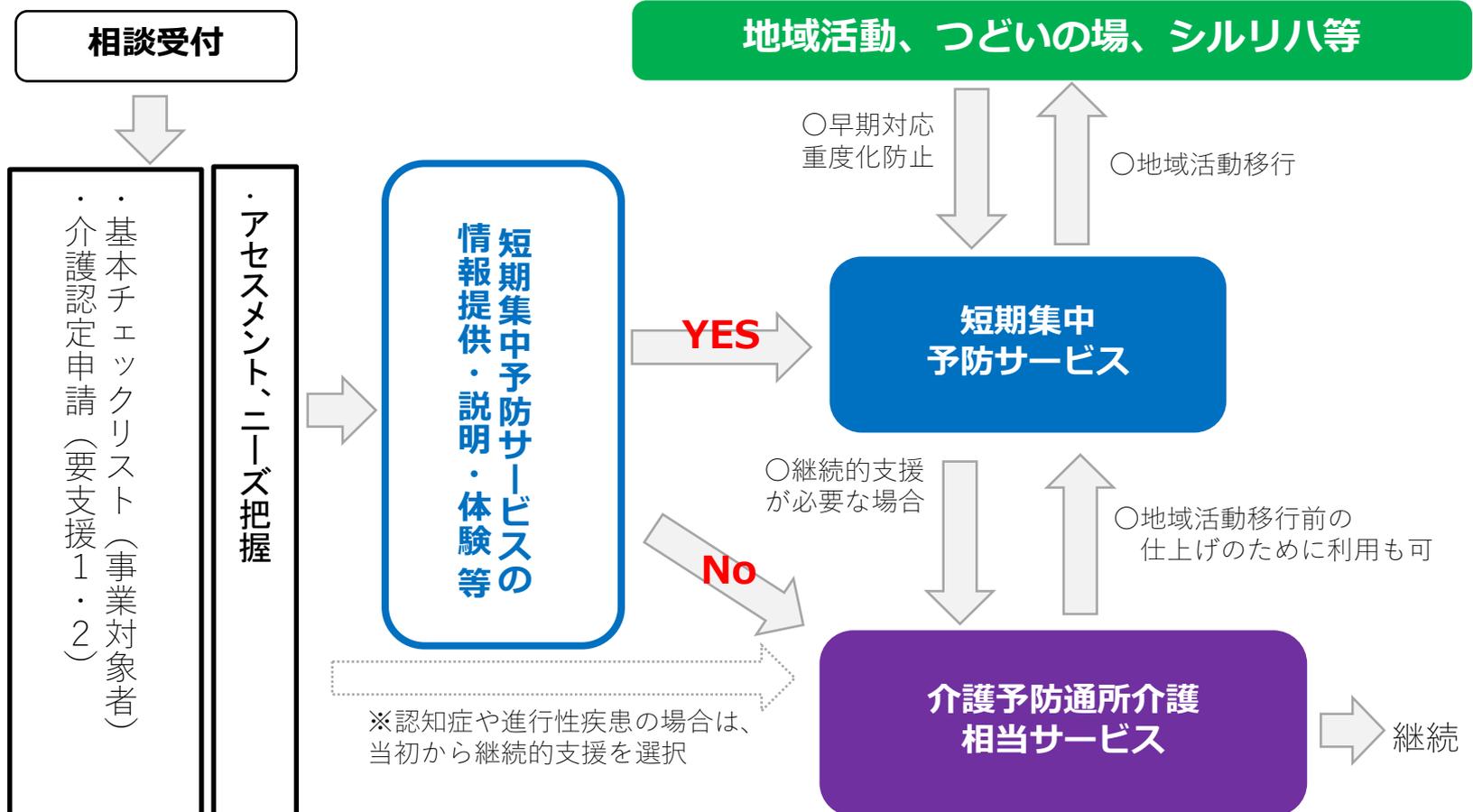


卒業式の風景



通所型短期集中予防サービスの位置づけ

これまでの成果を踏まえ、短期集中予防サービスを、機能訓練の入り口とします。
そのうえで、3～6カ月の短期間の支援ではなく、継続的な支援が必要と判断された場合、
現行相当サービス等へつなぐ方向性とします。





住民主体型（住民支え合い活動）

第2層協議体（13圏域）開催状況

年度	回数	開催月
H29	第1回	7月
	第2回	11月
	第3回	2月
H30	第4回	6月
	第5回	10月
	第6回	2月

【協議体において出された主な意見】

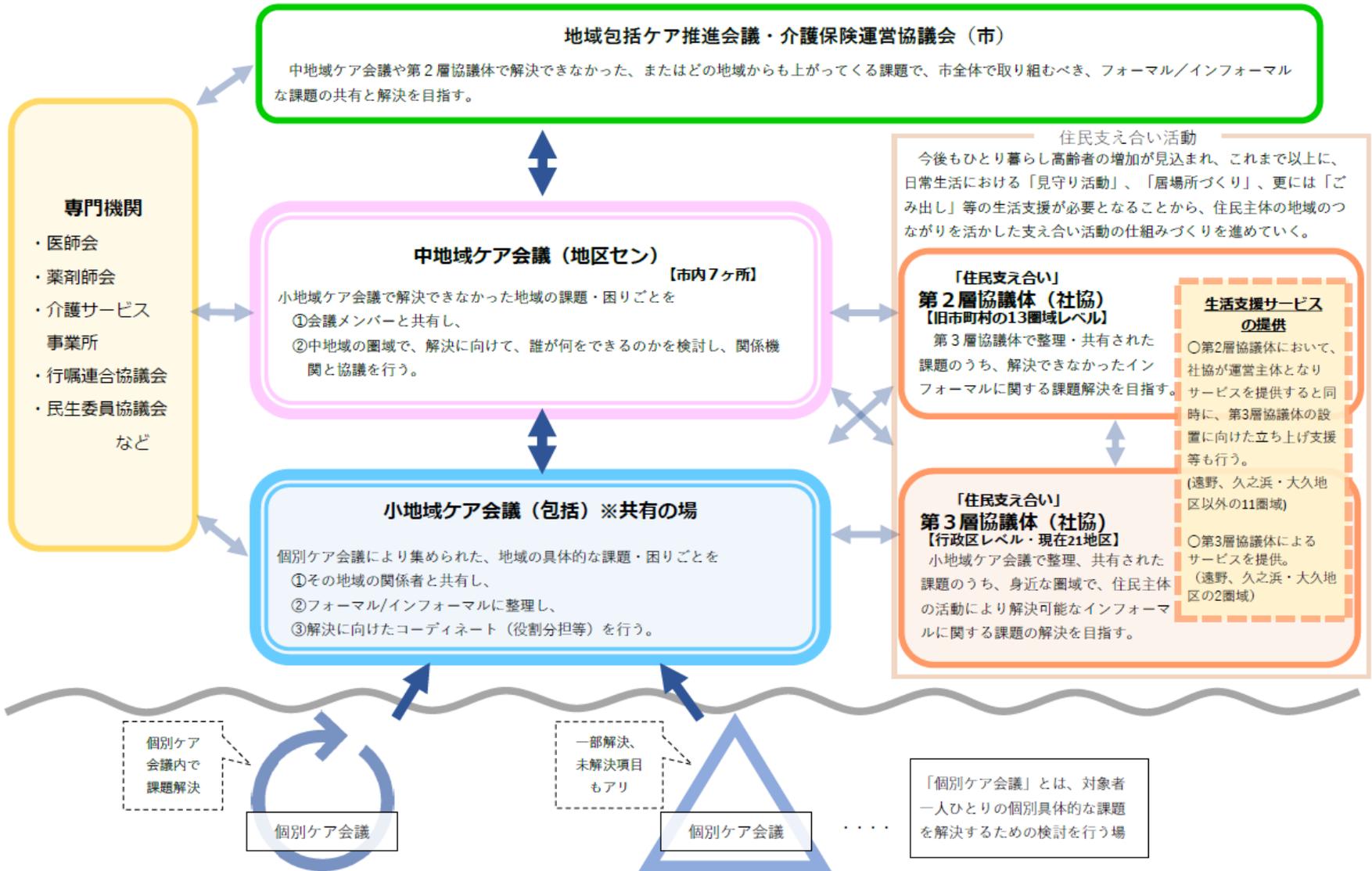
- 移動販売などの生活支援サービスがリスト化されていると活用もしやすいだろう。
- 既存の組織を上手く活用しながら、ごみ出し支援などの新たな活動に取り組めるとよい。
- 多世代の交流の重要性。
- 民生委員の負担が大きいため、隣組長などがそれを支えるような形で見守りに取り組めるとよい。

【平成30年度の取り組み】

- 生活課題・社会資源の整理、新たな生活課題の把握、地域ニーズの調査の実施・報告・分析等
- 活動の必要性・重要性を広く伝えるため、**多様な媒体による事業の周知・広報**
- 活動の必要性についてははたらきかけを含む**勉強会の開催・意見交換**
- 地域住民を中心とした**活動グループの立ち上げ・組織化支援**
- サービスの担い手を養成するための、**担い手養成講座の企画**
- 生活支援ニーズとサポーターのマッチング**



地域ケア会議と協議体の関係性 (イメージ)





支え合い活動団体（第3層協議体）※H30新規地区

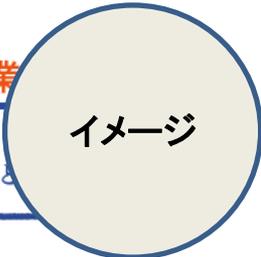
地区	世帯数 人口	会議 構成員数	サポーター 数	立上げ時期	活動内容 (予定も含む)
四倉 梅ヶ丘南地区	146世帯 419人	12名	13名	H30.5	見守り、声掛け、つどいの場運営、買い物支援等を行っている。
小川 山ノ入・淵沢地区	243世帯 673人	11名	未確定	H30.5	対象者を把握し、つどいの場運営、ごみ出しなどに取り組んでいきたい。
小名浜 玉露区1・2区	790世帯 2,500人	30名	未確定	H30.10	見守りを基本とし、まずは草むしりや電球交換等、できることから始めたい
入遠野1区 入定地区	62世帯 172人	17名	11名	H30.11	高齢者の困りごとを把握するため、まずは声かけを行っている。
入遠野2区 東山行政区	37世帯 114人	23名	未確定	H30.11	これまでも声かけ・ゴミ出し等を行ってきたが、活動内容の充実を図りたい
遠野 下滝行政区	167世帯 478人	9名	未確定	H30.12	高齢者への定期的な声かけにより、まずは地域の困りごとを把握したい
入遠野2区 関谷・落合地区	31世帯 94人	5名	5名	H31.1	見守り活動を通して、地域の困りごとを把握し、できることから対応したい



住民支え合い活動づくり事業パンフレット「(仮)支え合いのススメ」



いわき市住民支え合い活動づくり事業



イメージ

ひとり暮らしや高齢者だけの世帯がますます多くなっている現代、住み慣れた町でずっと暮らしていくためには、“ご近所同士の支え合い”が必要。それはわかっているけれど、どうやって声をかけていいか不安。どんな活動したらいいかわからない。そんな不安にお応えしながら、皆さんの暮らす地区で「支え合い」が行われていくよう、様々な支援をする事業です。

例えば、こんなこと

話し相手、ごみ出し、片づけ、つどいの場の開催、草刈り、買い物代行、書類代筆 など

暮らしの中のちょっとした困りごとのお手伝いなど。

22 現在、市内22地区で、住民支え合い活動が行われています。
(H31.3.1時点)

支え合い活動に興味のある方は、お住まいの地区の社会福祉協議会(☎は裏面にあります)まで、どうぞお気軽にご相談ください。

困ったなあ…



話し相手がほしいな… ゴミ出しができないな…

地域の力になりたい



退職後は時間があるな 高齢の方を助けたいな



支え合うことで「ありがとう」がめぐり、地域の元気、暮らしの元気につながります

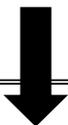


いきいきシニアボランティアポイント事業

生きがいつくり、介護予防等を目的として、65歳以上の方を対象に、市が指定するボランティア活動に対してポイントを付与し、ポイントに応じて商品と交換する事業。ボランティア活動については、登録いただいた市内の各種施設等で実施。

【受入機関の拡大】

H31年度も引き続き事業実施の予定としていますが、受入機関の拡大により、活動するエリアやジャンル等、活動する方の選択肢が増え、参加者増にもつながるため、今後も関係者の声に耳を傾けながら事業の拡大に努める。



H31.2.1
いわき市医療センターが
活動の受入機関として登録



【いわき市医療センターでの主な活動内容】

- ①患者の見守り（車椅子の貸し出しと整理）
- ②再来受付機の操作補助
- ③医療費支払いの案内
- ④患者向け図書室の運営
- ⑤おしゃべりサロンでの傾聴等（がん患者の方やその家族）
- ⑥お茶会の準備・片付け（緩和ケア病棟）

【H31.2月末現在受入機関数】

区分	受入機関数	備考
高齢者の施設	105箇所	特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホーム等
子どもの施設	7箇所	保育所、幼稚園等
障がい者の施設	15箇所	施設入所支援、就労支援等
その他の施設	15箇所	図書館、ボランティア団体、医療機関、等
合計	142箇所	

現在65歳の方から78歳の方まで
17名の方が事業に参加して活動中



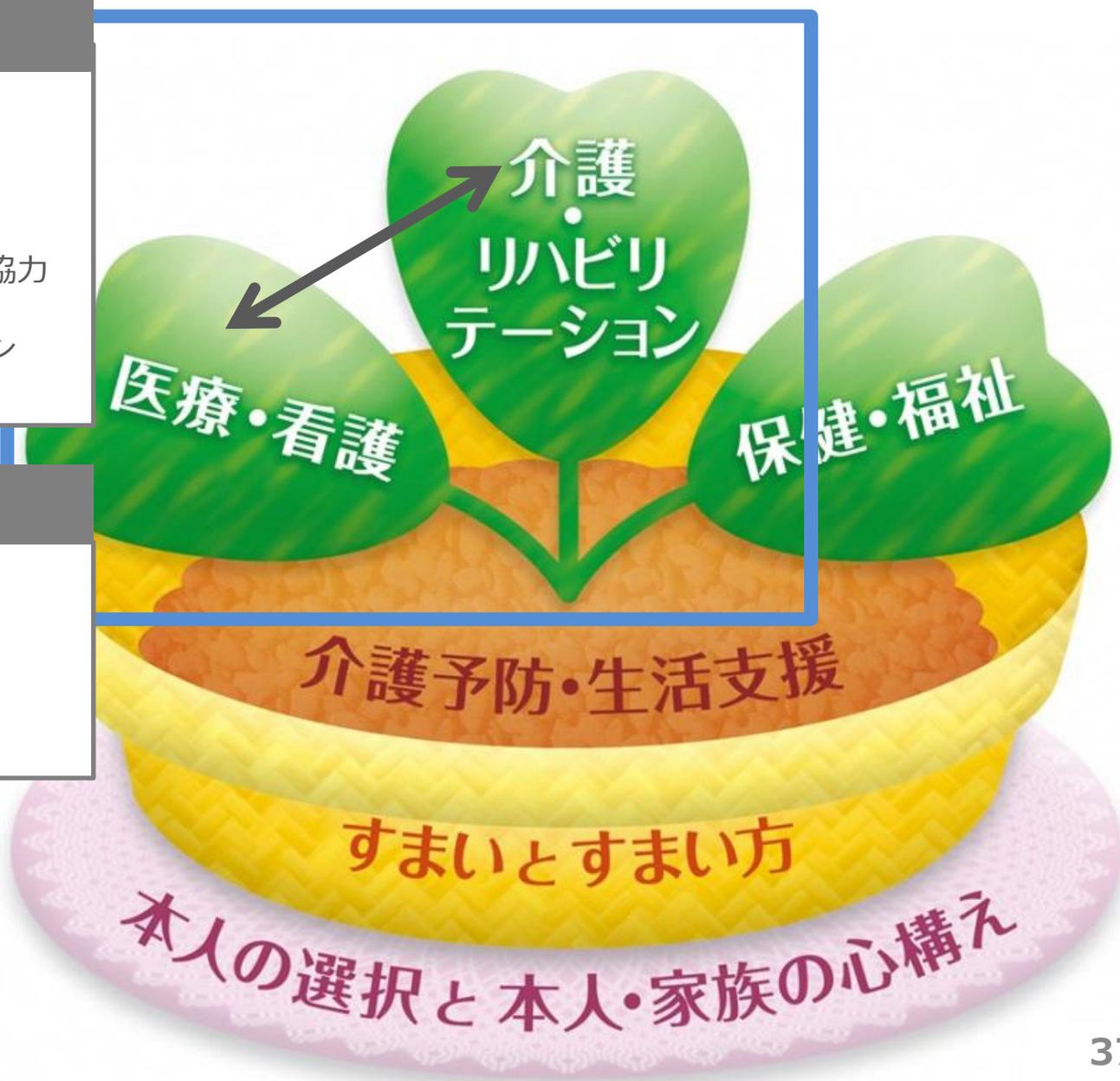


① 医療と介護の連携

- ・ 退院調整ルール
- ・ ルール運用評価会議
- ・ 在宅医療関連事業報告会
- ・ 在宅医療出前講座
- ・ 健康づくり等に関する連携協力提携の締結
- ・ 在宅医療・介護連携支援センターの設置

② 認知症

- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ 認知症カフェ
- ・ 認知症多職種協働研修会
- ・ いわき市介護事業所協議会





ときどき入院
ほぼ在宅



退院時、病院→ケアマネ連絡の有無アンケートの結果

いわき市

ルール策定前 (H28. 7・8月)	ルール運用 半年後 (H29. 7・8月)	ルール運用 1年半後 (H30. 7・8月)
53.6%	⇒ 62.8%	⇒ 71.6%

県中

ルール策定前 (H27. 5月)	ルール運用 半年後 (H28. 8月)	ルール運用 1年半後 (H29. 8月)
70.9%	⇒ 76.4%	⇒ 81.4%

病院とケアマネがさらに連携を進めるために、引き続き、アンケート調査の実施や運用評価会議を開催



いわき医療圏退院調整ルール運用評価会議

医療と介護が連携し、入院時から情報を共有し、退院に向けた連絡・調整を行うための仕組みである「いわき医療圏退院調整ルール」について、ケアマネ代表者、病院代表者、その両者合同による会議を実施し、運用状況の確認・評価を行い、ルールの改正点等について協議した。

会議名	ケアマネジャー代表者会議	病院代表者会議	病院・ケアマネ合同会議
日程	11/22 (木)	12/12 (水)	1/11 (金)
参加者数	24名	33名	61名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国からの提示に伴い、入院時情報提供シート等の様式の見直しを検討 ・「退院調整ルール」の運用に伴う好事例を共有 ・ケアマネアンケートにより抽出された課題等のGW <ul style="list-style-type: none"> ➡GWで出た2つの提案を病院代表者会議へ ①入院時情報提供書の受取り確認方法 ②更なるルール徹底に向けた病院側との意見交換の機会を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・国からの提示に伴い、入院時情報提供シート等の様式の見直しを検討 ・「退院調整ルール」の運用に伴う好事例を共有 ・11/22のケアマネ代表者会議で出た2つの提案の検討 <ul style="list-style-type: none"> ➡最終判断は合同会議で対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・国からの提示に伴い、入院時情報提供シート等の様式の見直しを検討 <ul style="list-style-type: none"> ➡改訂し、市HPに掲載 ・「退院調整ルール」の運用に伴う好事例を共有 <ul style="list-style-type: none"> ➡双方で共有を図る ・11/22のケアマネ代表者会議で出た2つの提案の検討 <ul style="list-style-type: none"> ➡入院時情報提供書の受取り方法について双方で確認 また、ルール徹底に向けて、アンケート等で分析を行う



平成31年度在宅医療関連事業報告会・懇親会

市医師会の主催により、「在宅医療関連事業報告会・懇親会」が開催され、医療・介護関係者約130名が参加し、「いわき在宅医療ネットワーク」や「いわき介護事業所協議会」等の在宅医療の取り組み等について情報共有を図ったほか、懇親会では、テーブルスピーチなどにより、互いの仕事等について意見交換を行った。

場 所：クレールコート（内郷）

日 時：平成31年1月24日（木） 18：30～21：00

参加者：医師、薬剤師、看護師、ケアマネ、行政、MSW、ST、PT 等

約130名が参加





在宅医療出前講座

地域の住民の方々が住み慣れた地域で望む生活が継続できるよう、在宅医療や健康維持について広く認識を深めていただくことを目的として、医師が地区へ出向き、医療機関への受診方法や認知症予防等の講演を行う「在宅医療出前講座」をいわき市医師会主催、市及び地域包括支援センター共催で開催。300名以上の住民が参加。

日時	場所	参加人数
10月13日(土)	渡戸公民館	29名
10月27日(土)	内郷公民館	23名
10月27日(土)	生活協同組合パルシステムみんなの交流館	39名
11月10日(土)	石森自治会館	30名
11月10日(土)	久ノ浜公民館	42名
11月17日(土)	金山集会所	43名
12月8日(土)	小名浜第三小学校	73名
3月2日(土)	飯野公民館	26名



いわき市民の健康づくり等に関する連携協力協定の締結について

市及びいわき市医師会並びに民間機関(株式会社ミナケア)は、市民の健康増進と健康長寿の実現に資することを目的として連携協定を締結。市が有する健診やレセプトのデータについて、匿名化を図り、民間機関が採択を受けた県の補助事業により構築するデータベースシステムを利用して、市民の健康課題を明確化し、効率的かつ効果的な健康づくり、疾病予防及び医療提供の推進等を図る。

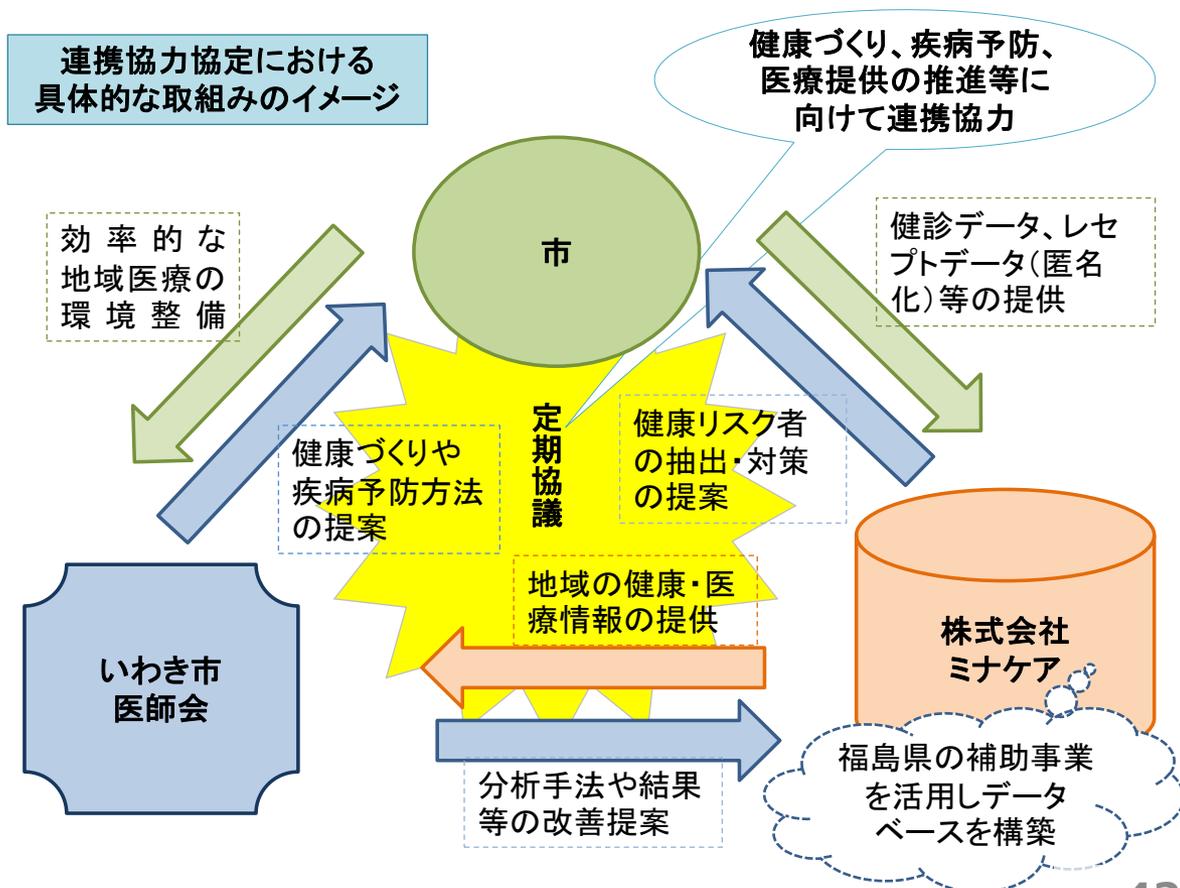
<協定締結式>

日 程：平成31年1月15日（火）

出席者：いわき市長

いわき市医師会長

(株)ミナケア代表取締役





いわき市在宅医療・介護連携支援センターの設置について

1 設置目的について

地域の医療・介護関係者や地域包括支援センターから、在宅医療・介護連携に関する相談を受け付け、連携調整・情報提供等により、その対応を支援する。

2 主な業務内容

- (1) 医療・介護関係者からの在宅医療等に関する相談受付
- (2) 医療・介護関係者への研修
- (3) 地域住民への在宅医療・介護に関する情報の普及啓発
- (4) いわき医療圏退院調整ルールへの運用評価 等

3 設置場所

市総合保健福祉センター 2階

4 委託先（予定）

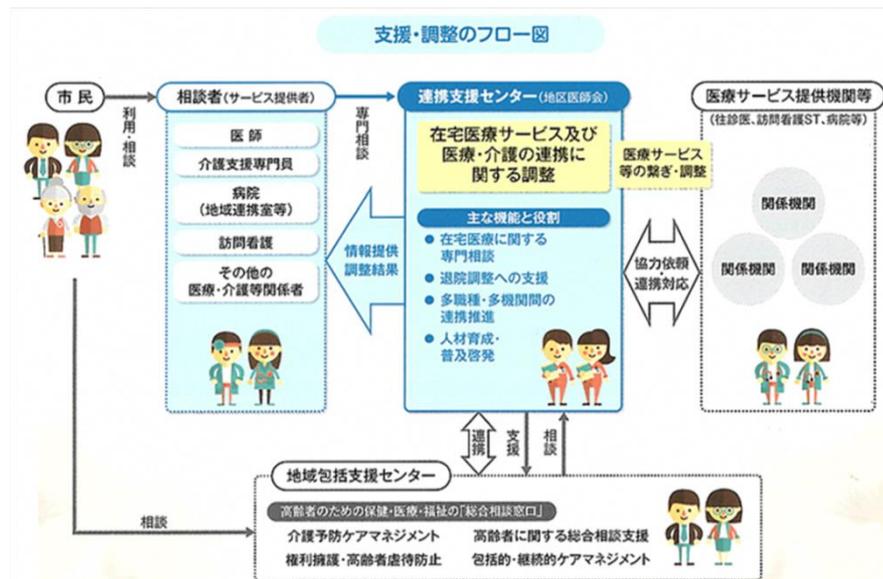
いわき市医師会

5 業務開始日（予定）

平成31年4月1日～

6 配置人員（予定）

3名（看護師、社会福祉士、介護支援専門員等の医療又は介護に関する知識を有する者2名）
（事務職1名）





認知症初期集中支援チームの実績と評価

年度	新規件数	進捗状況		平均支援期間	のべ訪問数	会議開催数
平成28年度	4件	終了	4件	10.00月	15回	7回
平成29年度	13件	終了	13件	7.16月	44回	8回
平成30年度 (H30.1月末時点)	17件	終了 継続	11件 6件	4.60月	65回	8回

把握ルート	H28	H29	H30
本人			1
家族	2	5	6
ケアマネ		1	3
近隣住民	1		2
民生委員	1		2
医療機関		1	2
その他 (銀行、行政など)		6	1
計	4	13	17

取扱件数は年々増加

➡訪問件数も増加

平均支援期間が短くなっている

➡チーム設置当初に比べて

認知症の初期段階のケースが増えている

ケースの把握は家族からの相談が多い

➡銀行・薬局・商業施設など、金銭の
支払いが伴う場所からの相談も多い傾向

初期段階で
適切なケアに
つなぐのが
チームの理想



認知症初期集中支援チームの拡充

今後ますます増え、より専門的な知識と対応力が必要とされる認知症の方の支援に備え、新たにチーム員を31名追加し、市内7地区で「地区会議」が開催できるよう体制を整備する。

旧チーム体制

- ・ 認知症専門医 1名
- ・ 看護師 1名
- ・ 包括支援センター 5名

新チーム体制

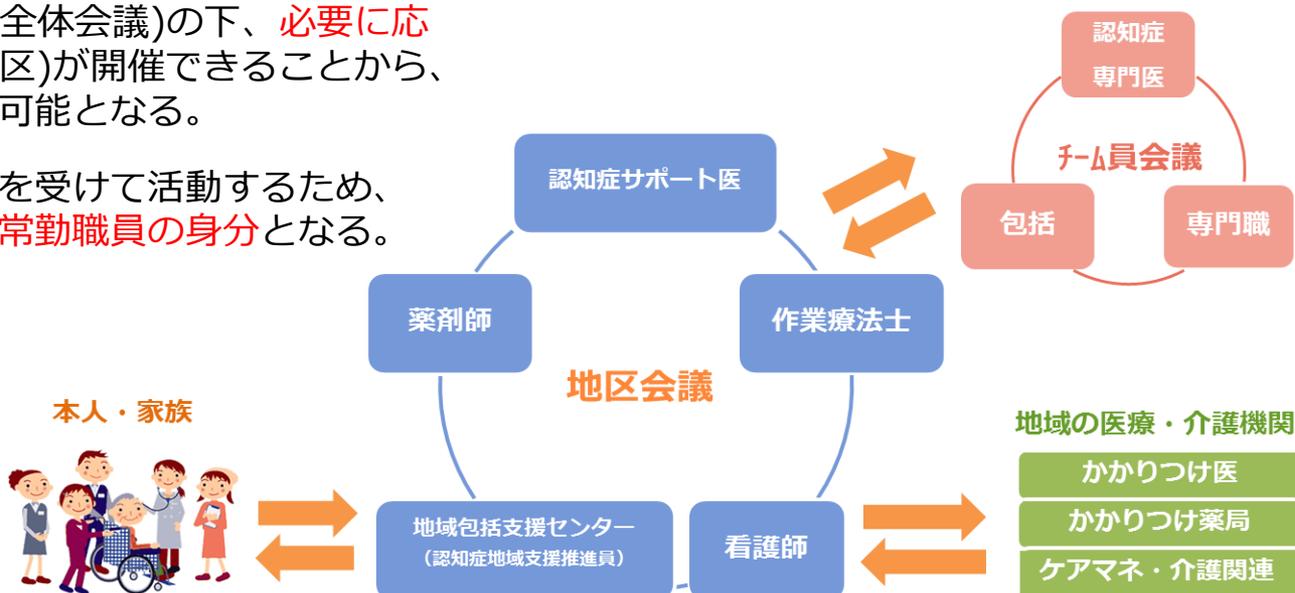
- ・ 認知症専門医 1名
- ・ サポート医 15名
- ・ 薬剤師 8名
- ・ 看護師 2名
- ・ 作業療法士 5名
- ・ 包括支援センター 7名



〔H31.1.22 新チーム員の委嘱状交付式の様子〕

月1回のチーム員会議(全体会議)の下、必要に応じて地区会議(市内7地区)が開催できることから、迅速かつ柔軟な対応が可能となる。

チーム員は市より委嘱を受けて活動するため、チーム活動中は市の非常勤職員の身分となる。





認知症カフェ事業「オレンジカフェ以和貴」の状況1

認知症の方とその家族が、認知症によって生じた生活の変化・混乱、不安感等を、同じ立場の方と共有・共感することで解消を図るほか、専門職による相談や、認知症の正しい理解の普及啓発と地域の方の交流の場として実施するもの。

H31.2～ 勿来地区で新規2か所開設しました！

①介護老人保健施設いきがい村（小浜町）



毎月第3日曜日
10:00～12:00

参加者数 5名
内容
・お雛様づくり
・リハビリ体験

②グループホームわいの家（植田町）



毎月第3水曜日
14:00～16:00

参加者数 37名
内容
・自治会長の講話
など

いわき市認知症カフェ事業委託事業

認知症によって生じた様々な不安や悩みは、同じ立場の方と共有することで、解消に繋がるのがたくさんあります。また専門職による相談、正しい知識の啓発、そして交流の場として実施しています。



認知症のことでお悩みですか？
ご家族・ご自身・周りの方など。
オレンジカフェは相談の場。
お気軽にご参加ください。



**オレンジ
カフェ
以和貴**
orange cafe iwaiki



対象 認知症の方とそのご家族 認知症のことでお悩みの方 認知症について知りたい方 費用 無料 申込みは不要です。直接お越しください。

小浜 オレンジカフェ in 2019
いきがい村 2/17・3/17

毎月第3日曜日 10:00～12:00

4/21	5/19	6/16	7/21	8/18	9/15
10/20	11/17	12/15	1/19	2/16	3/15

お問合せ ▶ 介護老人保健施設 いきがい村 ☎ 0246-62-0030



いわき市小浜町東ノ作 164-2

植田 オレンジカフェ in 2019
わいの家 2/20・3/20

毎月第3水曜日 14:00～16:00

4/17	5/15	6/19	7/17	8/21	9/18
10/16	11/20	12/18	1/15	2/19	3/18

お問合せ ▶ グループホーム わいの家 ☎ 0246-63-1711



いわき市植田町小名田13-2

日程が変更となる場合もありますので、開催については各カフェにお問い合わせください。
事業に関するお問合せ：いわき市 保健福祉部 地域医療介護室 地域包括ケア推進課 TEL 0246-22-7465

新規開設にあたって勿来・田人地区においてH31.2.8付でチラシを全戸回覧しました



認知症カフェ事業「オレンジカフェ以和貴」の状況2

市では、日常生活圏域（14圏域）ごとに1か所のオレンジカフェ開設を目指しており、今後の展開のため中地域ケア会議や地域の介護事業所などと、新規開設の準備を進めています。

例えば・・・

平成31年1月31日 **小川・川前地域包括支援センター**主催
「小川地区認知症事例検討会」にて事業概要の説明

- オレンジカフェ以和貴の目的
- 市内のオレンジカフェの状況
- 開催にあたって必要なヒト・モノ・カネのこと など



～地域からの意見～

- カフェの必要性あり、小川地区でもやってみたい。
- 事業所が少ない、かつ小規模のため、ほかのカフェのように1事業所が事業受託するのは難しいのでは??
- 交通機関がなく、自宅からカフェまでの移動手段の確保は??

少ない資源でも継続して開催できるよう、今後も地域との調整を進めます。



小川地区でのカフェ開催候補場所である小川郷駅隣の「貨車」外観と内部の様子



平成30年度 認知症多職種協働研修会について

福島県認知症疾患医療センター舞子浜病院 × いわき市 の共同開催

認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らすため、認知症の方やその介護者を支えるための体制構築と認知症の正しい知識と理解の普及啓発、そして多職種間の顔の見える関係づくりを目的として実施。

- 【日 時】 平成31年3月3日（日）13：30～16：45
- 【場 所】 舞子浜病院 厚生棟2階 大会議室
- 【参加者】 50名（医療関係者、介護関係者、行政 等）
- 【内 容】

◆認知症の事例検討「認知症の方や家族をどのように支援していくか」

舞子浜病院 認知症専門医 田子久夫 氏、 PSW 鈴木 恵利子 氏 ほか

◆VR認知症体験会

株式会社シルバーウッド 黒田 麻衣子 氏



～参加者のアンケートより～

- ◆多職種でのグループワークは各専門職の視点からの意見が聞かれ良かった。
- ◆認知症の方やその家族の支援について、いろいろな角度から考えられた。
- ◆VR体験はとてモリアルで、たくさんの方にやってもらいたい。
- ◆これからも定期的な開催を望む。 など

おおむね好評であった。

今後も興味を持って参加していただける内容を提供したい。



いわき市介護事業所協議会（高齢者生活安全部会より）

訪問介護分科会

- ・参加数 9事業所

平成31年2月8日（金）第2回分科会開催 出席者6名

- ・どこの事業所も人材不足で、利用者のニーズに応じられないこともしばしば。
→分科会でつながった事業所が連携し、1人の利用者に複数事業所に対応。
利用者の希望に沿って事業所間で調整するため、ケアマネも省力できる。
- ・来年度は会員をもっと増やし、サービス提供のルールや個別ケースの対応などを学んでいく。

通所介護分科会

- ・参加数 27事業所
(31名)

平成31年2月1日（金）第2回分科会開催 出席者21名

- ・5～6名のグループワークで来年度の活動を検討
- ・来年度は「人材育成」（特に新人研修）をテーマに活動を進める

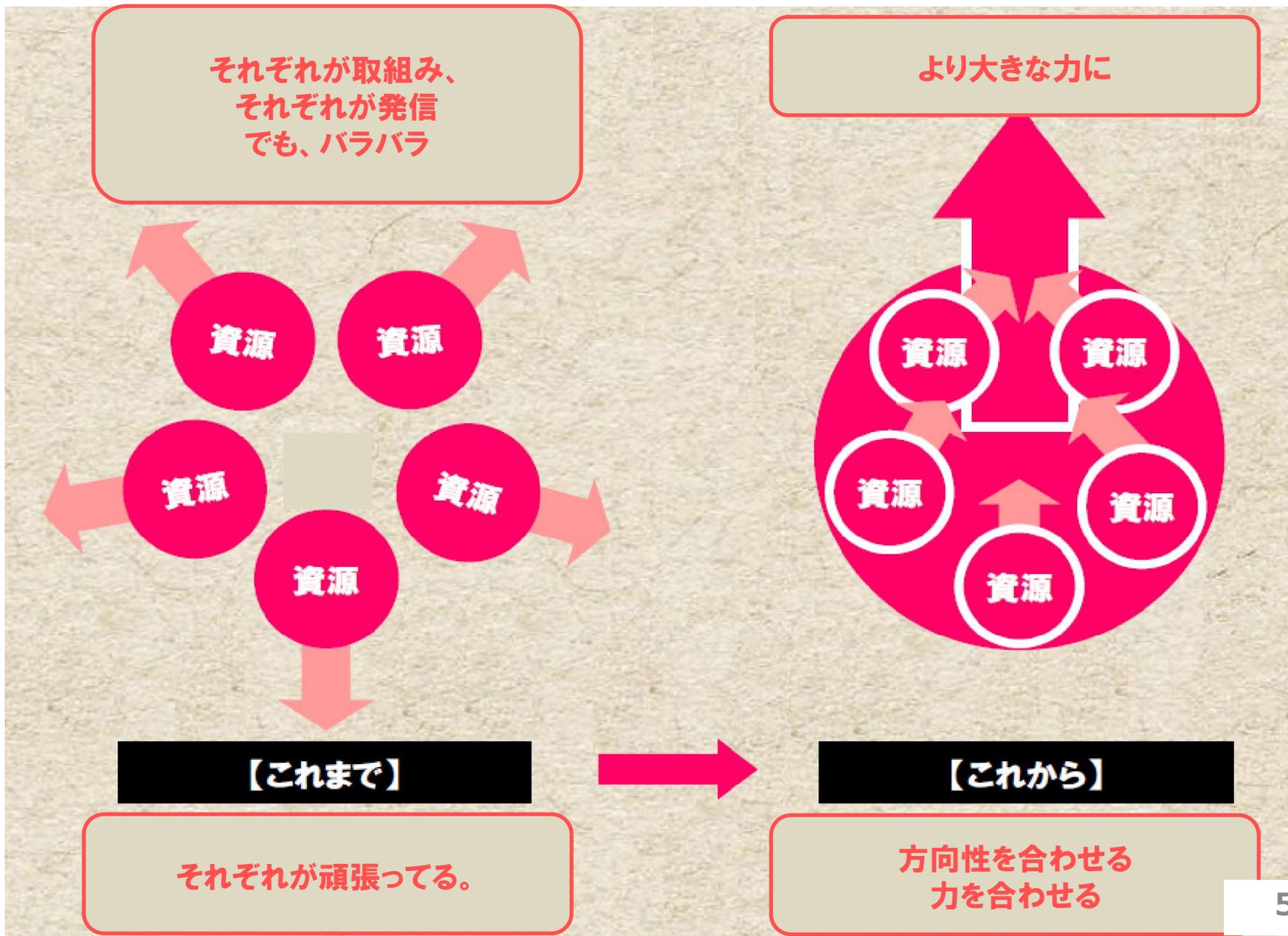
認知症サポート部会

- ・参加数 23事業所
(28名)

平成31年2月22日（金）第3回分科会開催 出席者37名

- ・市内の人材を活用して勉強会を開催し、認知症のスキルアップを図る
- ・今回は、サンライフゆもと箱崎施設長による認知症講座を開催した
- ・来年度も認知症をテーマに勉強会を開催する

上記のとおり各分科会で独自に活動を進めるほか、老施協・ケアマネ連協・グループホーム協議会・小規模多機能協議会が開催する研修会や講演会の情報も共有し、市内の介護業界全体がレベルアップできるよう活動を進めていく。



それぞれが取組み、
それぞれが発信
でも、バラバラ

より大きな力に

資源

【これまで】

【これから】

それぞれが頑張ってる。

方向性を合わせる
力を合わせる